

大河原町長期総合計画・後期基本計画策定に係る 開催日▼7月7日～7月9日 地区懇談会を開催しました

Well-beingなまちづくりを目指して

町では、大河原町長期総合計画（令和元年度～11年度）の目指すまちづくりの基本構想を実現するため、基本計画で方向性を定め、各分野の施策を進めてきました。本年度、前期基本計画（令和元年度～5年度）の評価・検証を行い、

この5年、私たちの暮らしは変動し、安定したものではなかったと感じています。町では、これからの暮らしを展望したとき、日々の幸福が実感でき、健康な日々を送れること、その状態が続いていくことの大切さを再認識しました。そこで、心身と社会が健康で幸福な状態が継続することを示す「Well-being」を活用し、“Well-beingなまちづくり”を後期基本計画の中で全面に出していきたいと考えております。

今後のまちづくりの進め方をまとめるため後期基本計画（令和6年度～11年度）策定の作業を進めています。前期基本計画の期間では、策定時になかった新型コロナウイルス感染症の拡大、原油・物価高騰に



よる暮らしへの影響、自然災害などもあり、予定どおり進捗していない状況があります。後期基本計画の策定にあたり、デジタル化や子育て支援等国の政策重点化、人口減少、少子高齢化、SDGs、多様性、地域共生社会等、町を取り巻く社会環境の変化を踏まえながら、町民のニーズを把握するため地区懇談会を開催しました。地区懇談会は、令和5年7月7日（金）から9日（日）にかけて町内5か所を会場に行いました。町から、後期基本計画策定の趣旨、住民満足度調査の結果、今後の12項目の重点政策に関する説明を行い、参加者から質問・意見をいただきましたので、その内容を掲載します。（一部割愛）

地区懇談会で説明した12の重点政策

- ①地域コミュニティの向上
- ②災害に強いまちを目指して
- ③スポーツによるまちづくりの展開
- ④地域ぐるみの健康増進
- ⑤こどもまんなか社会の実現に向けて
- ⑥重層的支援体制の整備
- ⑦白石川右岸河川敷等整備の進捗状況
- ⑧農業・商業・工業の振興策
- ⑨一目千本桜のブランド化と観光・地場産業の振興
- ⑩学校施設の大規模改修
- ⑪郷土を誇るひとづくりへの取り組み
- ⑫行政手続きのデジタル化

子育て支援、河川敷整備の方向性、地域コミュニティの課題、桜の管理等の質問がありました

質問 「こどもまんなか社会」を目指すところがあるが、共働きが増えている中、放課後児童クラブの対応は？また、運営を指定管理に任せることで質が高められるのではないか。

回答 放課後児童クラブの利用者は年々増えています。定員より多く受入れを行い、一時利用でも対応をしている現状です。

民間の力を借りる指定管理も視野に入れるべきですが、職員体制もあり早々には移行できる状況にはありません。

質問 河川敷整備でつくる賑わい交流拠点施設は大規模な政策、町民の理解を得る進め方をしてほしい。

回答 県とのコラボ事業で始まり、住民説明会を開き、コロナ禍後の賑わい創出、民間活力導入による展開、Well-being

なまちづくりにつながることは説明し続けています。議会との共通認識のもとに進めていますので、共に説明責任を果たしていきます。



▲賑わい交流拠点施設の整備予定地区

質問 地区コミュニティを進める際に、アパート等が区加入や行事参加などへの反応が悪い。また班長をお任せするが高齢のかたが多く、苦勞をかけている。様々に課題があり、区運営が大変になっている。

回答 区での課題、住民目線での困り事があることは認識しています。その都度相談いただき、一緒に考えていきたいと思っております。

質問 桜が咲くのはすばらしいが、土手扱いでは枝折れ、落ち葉等で土手扱い住民の手間が生じている。町からのフォローはないに等しい。

回答 桜樹の管理の一環として、そのような困り事があれば、状況について担当課に申し出願いたします。

質問 今回の計画に道の駅整備がない。大河原町は立地的に条件がよい。賑わいをつくるために再度計画してほしい。

回答 白石川右岸河川敷等整備により賑わいをつくりたい。産業振興、観光、地域づくりの視点

による組み立てを付加し、道の駅整備にこだわることなく可能性を広げていきます。



▲地区懇談会の様子